

## 第1学年 国語科学習指導案

日 時 平成27年10月1日 公開授業 I  
児 童 男子11名 女子8名 計19名  
授業者 少路 綾子

- 1 単元名 しらべたことをまとめてしょうかいしよう  
～おきにいりののりもののずかんをつくらう～
- 2 教材名 「いろいろなふね」 (東京書籍)
- 3 単元について

<目標>・乗り物について「仕事」とそれに応じた「つくり」などの事柄の順序に気を付けて読むことができる。[読むことイ]  
・乗り物の「仕事」や「つくり」に着目し、気に入った言葉や文を書き抜くことができる。[読むことエ]

### <教材の特性と単元構想の柱>

本単元で扱う教材は、四種類の船の例示が同じ文章構成、同じ文型で説明されている。このような教材を通して、事柄の順序に沿って内容の大体を読んで理解する力、文章の中の大事な言葉や文を書き抜く力をつけたい。一単位時間に、教科書教材、補助教材と並行読書を取り入れた学習を展開していく。

### <単元を貫く言語活動>

自分がすごい、かっこいいと思うお気に入りの乗り物について調べ図鑑をまとめる。

### <論理的な読みのための知識・技能>

- 説明文の基本的文型
- 事柄の順序に沿って比べながら読む。

### <児童の実態（説明文に関して）>

これまで学習した「どうやってみをまもるのかな」において、説明文の順序や構成を読み、書かれていることの大体をおさえることができるようになった。また、並行読書から選んだ題材で同じような構成の文章を書いてきた。しかし、ただ機械的に本文の文章を真似て書くだけで、事柄の順序に目を向けていない児童も少なくない。また、書くことに対して抵抗を示す児童も数人いる。

### <全員が「わかる」ための手立て>

単位時間の前半で、教材文で必要な情報（仕事とつくり）に着目して読み、共通の土台に乗せる。後半では、並行読書している自分が選んだ本や図鑑を読む活動を設定し、学習したことをすぐに適用させることで児童の実感が膨らんでいくようにしていく。

#### 4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
乗り物に興味をもち、進んで教材文や乗り物に関する本や図鑑を読み、乗り物図鑑を作ろうとしている。	乗り物に関する図鑑や本の見出しや写真、説明などの情報から、仕事に合ったつくりはどれか考えながら読んでいる。【イ】 自分が「すごい、かっこいい」と思った乗り物の仕事とつくりを抜き出して乗り物図鑑にまとめている。【エ】	文の中における主語と述語との関係に注意して読んでいる。【イ（カ）】

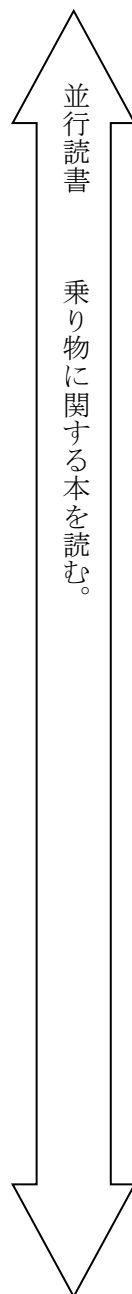
#### 5 単元の指導計画

次	時	学習内容	授業の工夫 *ユニバーサルデザインの視点	評価規準 (評価方法)
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な経験を通して乗り物について話し合い、興味・関心をもつ。</li> <li>単元のねらいを知り、見通しをもって学習計画を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗り物図鑑（教師自作）のモデルを示すことで単元のゴールを見通すことができるようにする。（共有化）</li> <li>乗り物図鑑作成のためにどのような学習計画で進めるか、単元全体の見通しをもてるようにする。（共有化）</li> </ul>	【関】乗り物図鑑や教材文への興味関心を高めている。
	2			
第二次	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>文の構成の大体をつかむ。</li> <li>説明に使われている基本的な文型や順序をおさえる。</li> </ul>	挿絵を有効活用しながら、確認する。（視覚化）	【読イ】ふねの「しごと」と「つくり」、「せつめい」の順序をとらえている。
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗り物図鑑づくりに向けて四つのふねの「しごと」を比べて読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文末に着目させる。（焦点化）</li> <li>それぞれの事例を比べ「しごと」を色分けする。（視覚化）</li> <li>教材文で学習したことを活かし、お気に入りの乗り物図鑑で見つけさせる。</li> </ul>	【読イ】ふねの「しごと」に気を付けて比べながら読んでいる。
	5 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗り物図鑑づくりに向けて、四つのふねの「しごと」に応じた「つくり」や「せつめい」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文末に着目させる。（焦点化）</li> <li>それぞれの事例を比べ</li> </ul>	【読イ】「しごと」とそれに応じた「つくり」や「せつめい」の順

並行読書

乗り物に関する本を読む。

		を読む。	「つくり」、「せつめい」を色分けする。(視覚化) ・教材文で学習したことを活かし、お気に入りの乗り物図鑑で見付けさせる。	序に気を付けて読んでいる。 [読エ]気に入った「しごと」に応じた「つくり」や「せつめい」を選んで書き抜いている。
	7 本 時	・乗り物図鑑づくりに向けて、補助教材のクレーン車の「しごと」に応じた「つくり」をとらえて読む。	・仕事と写真や説明を結び付けて比較させる。(共有化、視覚化) ・補助教材文で学習したことを活かし、お気に入りの乗り物図鑑で見付けさせる。	[読イ]見出しや絵、説明などの情報の中から、「しごと」に必要な「つくり」を見付けて読んでいる。
第 三 次	8 9 10	・お気に入りの乗り物の「しごと」、「しごと」に応じた「つくり」を書く。 ・お気に入りの乗り物のすごい！が伝わるように「せつめい」を書く。	・必要に応じて教材文の学習を想起させながら、書き方を確認する。(視覚化) ・図鑑や本の見出しや写真・絵、説明などから、仕事とつくりを結び付けて比較させる。	[読イ]図鑑や本から「しごと」とそれに応じた「つくり」や「せつめい」に気を付けて読んでいる。 [読エ]図鑑や本から「しごと」やそれに応じた「つくり」や「せつめい」を選んで書き抜いている。 [言]本や図鑑の主語と述語との関係に注意して読み、乗り物図鑑にまとめている。
	11	・乗り物図鑑を交流し、これまでの学習を振り返る。	・交流の仕方を提示する。(視覚化)	[関]好きな乗り物についてさらに調べようとしている。



## 6 本時の指導

### (1) 本時の目標

乗り物図鑑を作るために、「しごと」に応じた「つくり」を見付けることができる。

### (2) 論理的な読みの指導の手立て

クレーン車の文で、「しごと」に応じた「つくり」の見付け方を共通の土台として学び、自分が選んだ本や図鑑の乗り物から「しごと」に応じた「つくり」を見つけさせる。

(3) 評価規準

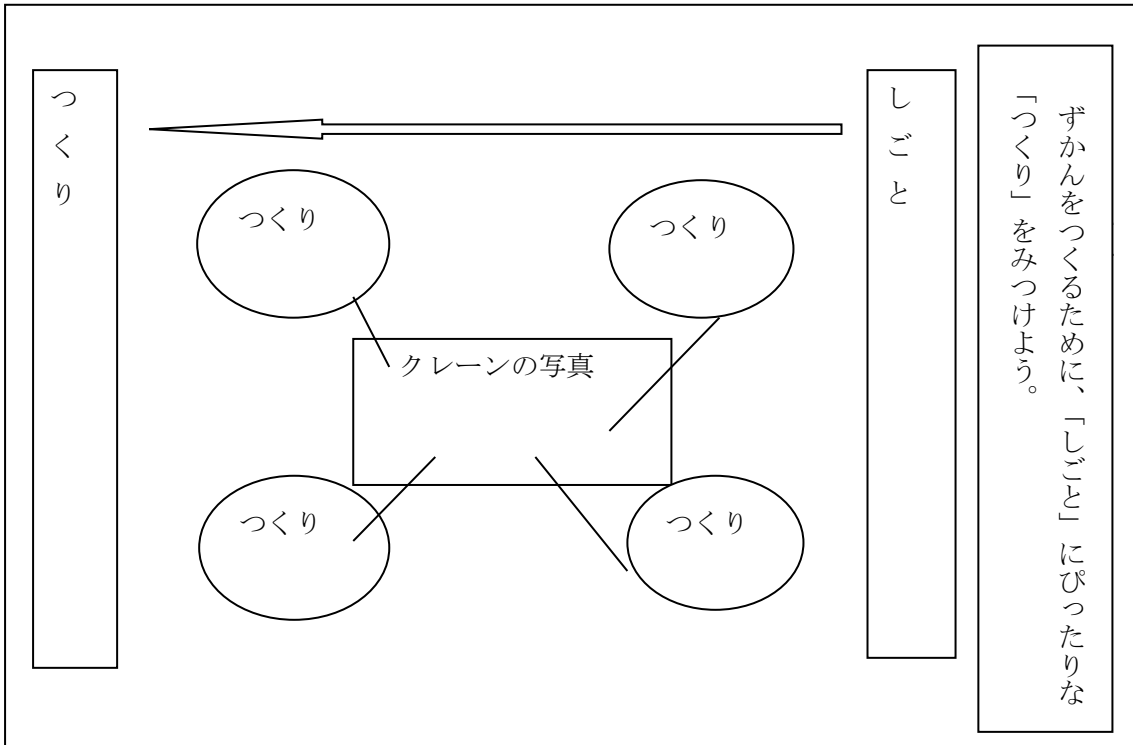
	A	B	Bに至らせるための手立て
読むこと	見出しや写真、説明などの情報の中から、「しごと」に必要な「つくり」を見付け、理由を明確にしながらかんづきながら読んでいる。	見出しや写真、説明などの情報の中から、「しごと」に必要な「つくり」を見付けて読んでいる。(イ)	「しごと」の内容を一緒に確認しながら、挿絵や説明とつなげて考えさせるようにする。

(4) 本時の展開 (焦点化☆ 視覚化□ 共有化◇ 評価◎)

段階	学 習 活 動	指導の工夫 (◎評価)	個別の配慮
つかむ	1 前時の想起 2 学習課題を確認する。		・掲示物で確認させる。
	ずかんをつくるために、「しごと」にぴったりの「つくり」をみつけよう。		
5	3 見通しをもつ。	◇教師自作の図鑑を見ながら、今日学習する部分を確認する。	
まなぶ 20	4 課題の解決 ・「しごと」と「つくり」の関係について考える。	☆「しごと」につながる「つくり」を見つける。 □写真と対応させながら、考える。 ◇組織的な話し合いを仕組む。	
いかす 15	5 土台を活かす。 ・自分が選んだ本の乗り物について、「しごと」につながる「つくり」を見つける。	☆前時見つけた「つくり」の中から、「しごと」に応じた「つくり」を選ぶ。 ◎自分が選んだ本の中かしごとにつながる「つくり」を見つけることができたか。	・「しごと」を確認させる。 ・写真や絵、説明とつなげて理解を促す。
まとめ 5	6 学習の振り返りをする。	・今日の学習で分かったことや感想を発表させる。 ◇学習計画に沿って今日の学習で身に付いた力を振り返り、全体への価値づけを図る。	

<資料>

○板書計画



○並行読書 ブックリスト

- ・はたらくのりものスーパーずかん
- ・のりもの